

目 次

題 字	編さん主任 中沢 勇
口 絵	発刊のことば 坂城町長 近藤甲善
例 言	監修者・執筆者一覧
近・現代	
第一章 村の明治維新	
概 説	
第一節 幕藩領から長野県へ	
一 伊那県中之条局の成立	五
二 費金の流行と伊那県商社	五
三 中之条局の廃止と反対一揆	五
四 松代一揆	一〇
五 中野県・松代県から長野県へ	一〇
第二節 区制の設置と村	
一 戸籍づくりの開始	一〇
二 戸籍区	一〇
三 大区小区制の成立と村	一〇
四 村寄合いと区会	一〇

五 南条村の成立

二 村の復活と戸長役場の設置
三 村会の開設と運営

八

第三節 年貢から地租へ

一 連合戸長役場と村

六

一年貢の納入

二 壬申地券の下付と土地測量
三 地租改正事業

九

高い農業生産力

一 國会開設運動と長野県
二 条約改正反対運動

九

徴兵令と西南戦争

一 街道・宿駅の変貌
二 橫吹新道の築造

九

官有地下もどし運動

一 地域内の住民対立
二 入会地をめぐる争い

九

官有地下もどし運動

一 地域内の住民対立
二 入会地をめぐる争い

九

第四節 変わる宿場と生活

一 六ヶ郷用水と諸堰
二 変わる農業

九

第五節 村の文明開化

一 平田門国学者と神葬祭
二 神仏分離の社寺
三 寺子屋から学校へ
四 学校教育と村民

九

第六節 産業の新たな動き

一 養蚕・製糸と蚕糸業組合
二 商工業の動きと南条銀行の設立

九

第七節 生活の変化

一 千曲川の渡し舟と船橋
二 住居と生活
三 衛生対策とコレラ
四 郵便局の増設
五 坂木・力石交番所と坂木分署
六 坂木遊廓の設置

九

第二章 戸長役場と村民

一 更級・埴科郡制のはじまり
二 戸長役場と村民

八

第一節 郡の設置と村の政治

一 概説
二 郡の設置と村の政治

八

第一節 郡の設置と村の政治

一 概説
二 郡の設置と村の政治
三 郡の設置と村の政治

八

第五節 教育と文化の展開

兜

一 衆議院・県会の議員選挙と政党活動

二〇七

- 一 学校校舎の新築と学区変更
- 二 学校教育の課程と就学者
- 三 学校諸規則の制定と教育費・設備
- 四 高等小学校の開校

兜

二 郡会の議員選挙と村民

三三三

- 三 郡政と村民の動き
- 四 教派神道の動向
- 五 キリスト教の坂木村伝道
- 六 坂木が「坂城」になる

兜

一 二か村用水組合と六か郷用水

三三三

- 二 農事改良と農会の活動
- 三 産業組合の結成と商工業
- 四 信越線の開通と輸送

兜

一 衆議院・県会の議員選挙と政党活動

三三三

第三章 町村制のもとで

概説

吉

第一節 町村合併と村の政治

吉

- 一 村上村の成立
- 二 村政の組織づくり

吉

- 三 町村役場の仕事と町村吏員
- 四 予算と村税の滞納

吉

- 五 村上村内の対立
- 六 区の設置と区会

吉

- 七 上平区の分村騒ぎ
- 八 坂城町の成立

吉

第五節 農学校創立と学校整備

吉

- 一 小学校就学率の向上と高等科
- 二 教育経費と学校建築

吉

- 三 日清・日露戦争と学校
- 四 実業補習学校の設置

吉

- 五 塘南農蚕学校の創立

吉

第二節 住民の政治参加と政党活動

モ

- 八 坂城町の成立

モ

六 教員の動向と信濃教育部会の設立	六三
七 新しい生活文化	六八
八 神社の国教化と合併	六九
九 村上氏の華族取立請願運動	七〇
第四章 活動する町村民	七一
概説	七一
第一節 自治の強化と郡制廃止	七二
一 町村政治の改良	七三
二 大正デモクラシー政治への動き	七四
三 憲政擁護運動と衆議院・県会選挙	七五
四 等級選挙の廃止と町村会	七六
五 普通選挙法の実施と無産政党	七七
六 多様化した町村財政	七八
七 部落有林野の統一	七八
八 郡制・郡役所の廃止	八〇
第二節 農業生産と農民の組織的運動	八一
一 小作農による農業と養蚕	八二
二 農作物と家畜・果樹・農民美術	八三
三 農家の多様な活動と農事小組合	八四
四 産業組合運動の発展	八五
第五節 社会運動の展開	八六
一 青年会の活動	八七
二 婦人の動きと信濃同仁会・水平社の運動	八八
三 消防組の活動と南条騒擾事件	八九
四 南条小作組合の設立と小作争議	九〇
五 坂城遊廓と廢娼反対運動	九一
第六節 大衆文化と教育のひろがり	九二
一 小学校教育の進展	九三
二 新しい教育思潮と教育活動	九四
三 実業補習教育と青年訓練所の設置	九五
五 農業用水路と旱害対策	九六
第三節 道路・鉄道と千曲川改修	九七
一 道路の郡道編入と自転者の普及	九八
二 坂城駅の整備と利用の増大	九九
三 千曲川の改修と昭和橋	一〇〇
第四節 生活の近代化と社会問題	一〇一
一 大正期の人口動態	一〇二
二 電燈と電話	一〇三
三 職業紹介所の設置と商工業	一〇四
四 伝染病の予防と衛生意識の向上	一〇五
五 米騒動対策と米の安売り	一〇六

四 南条小学校の火災と中島校長の「殉職」	四三
五 文化財・天然記念物の保護	四七
六 俳句会・短歌グループの隆盛	五〇
七 同窓会誌・文芸誌の発行	五三
八 坂城遊廓の廓歌舞伎と演芸	五四
第五章 戰争への道	
概説	四九
第一節 昭和恐慌と町村の政治	四九
一 経済不況と町村財政	五〇
二 町村税の滞納と寄付金採納願	五二
三 恐慌対策の土木事業と耕地整理	五七
四 政党への失望と各種選挙	五九
五 昭和前期の町村選挙と翼賛選挙	六六
第二節 人口の動きと産業の行詰り	
一 昭和前期の人口	七〇
二 恐慌と戦時下の農業	七九
三 経済更生運動の展開	八三
四 小作農の増大と自作農創設	八七
五 小作組合運動の高まりと衰退	九六
第三節 戰争下の社会運動と社会生活	
一 第三節 戰争下の社会運動と社会生活	一〇
二 生活環境の悪化と防災活動	一一
三 社会事業と同仁会の活動	一二
四 バス交通の開始と新国道	一二
第四節 一五年戦争と町村民の動員	
一 満州移民と更級郷・埴科郷	一二
二 日中戦争と国民精神総動員	一二
三 大政翼賛運動と太平洋戦争	一二
四 町村常会と部落常会隣組	一二
五 太平洋戦争と戦没者	一二
第五節 戰時体制と教育	
一 昭和前期の小学校	一二
二 農村不況と学校	一二
三 日中戦時下の学校	一二
四 坂城神社の昇格と社会教育	一二
五 南条郷土研究会	一二
六 青年学校の発足と男子義務制	一二
七 国民学校の発足	一二
八 農繁期保育所の開設	一二
九 青年団の結成	一二
一〇 集団勤労奉仕	一二

一一 学童集団疎開の受け入れ

六七〇

二 平和産業への転換

七一〇

三 坂城町工友会の動き

七二〇

四 農業協同組合の成立

七三〇

五 交通運輸の整備と拡大

七四〇

六 金融機関の拡充

七五〇

七 通信運輸の整備と拡大

七六〇

八 金融機関の拡充

七七〇

九 新学制と小学校

七八〇

一〇 新制中学校の発足

七九〇

一一 坂城高等学校の県立移管

七一〇

一二 教育委員会とP.T.A

七二〇

一三 青年会と婦人会の再出発

七三〇

一四 公民館活動の展開

七四〇

一五 幼稚園・保育所の設立

七五〇

一六 公民館活動の展開

七六〇

一七 喜好会

七七〇

一八 喜好会

七八〇

一九 喜好会

七九〇

二〇 喜好会

八〇〇

二一 喜好会

八一〇

二二 喜好会

八二〇

二三 喜好会

八三〇

二四 喜好会

八四〇

二五 喜好会

八五〇

二六 喜好会

八六〇

二七 喜好会

八七〇

二八 喜好会

八八〇

二九 喜好会

八九〇

三〇 喜好会

九〇〇

三一 喜好会

九一〇

三二 喜好会

九二〇

三三 喜好会

九三〇

三四 喜好会

九四〇

三五 喜好会

九五〇

三六 喜好会

九六〇

三七 喜好会

九七〇

三八 喜好会

九八〇

三九 喜好会

九九〇

四〇 喜好会

一〇〇〇

第六章 町村政治の民主化

一〇一〇

概説

一〇二〇

第一節 民主政治への転換

一〇三〇

一 戰後処理と町村政治

一〇四〇

二 町村長・議員の公選と町村政

一〇五〇

三 農地改革

一〇六〇

四 復員・引揚者と犠牲者の慰靈

一〇七〇

第二節 新しい自治

一〇八〇

一 公職選挙法と議会

一〇九〇

二 町村役場の新しい発足

一一〇〇

三 町村財政の民主化

一一一〇

四 自治体警察の成立と廃止

一一二〇

第三節 生活の再建

一一三〇

一 人口の動きと職業

一一四〇

二 和平の開拓

一一五〇

三 社会福祉と保健衛生

一一六〇

四 自然災害と消防

一一七〇

第四節 産業構造の変化と産業団体

一一八〇

一 農業の復興

一一九〇

五 町政をすすめた人々	八七
六 合併後の町のおもな施政	八〇
七 坂城町合併記念事業	八三
八 坂城町都市計画の策定	八六
九 拡大した町財政	八四
一〇 「住民課たより」から「広報さかき」	八七
一一 町村合併後の人団の動き	八〇
第二節 成長する工業と農業改善	八六
一 新農計画と坂城町	八六
二 農業構造改善事業	八七
三 豊協の合併と事業の拡大	八四
四 工場の進出・工業化の進展と労働事情	八三
五 公害の発生・公害防止の町宣言と工業振興条例	八二
六 構造不況と世紀紡績	八三
七 変わる坂城町の商業	八五
第三節 公共事業の促進	八六
一 橋の整備と新設	八六
二 道路整備と自動車の普及	八七
三 信越線複線化と県道田町線	八八
四 有線放送と電話の普及	八九
五 上水道布設	九〇
第四節 社会福祉の拡充	九一
一 年金制度と老人福祉	九二
二 老人クラブの結成	九〇
三 老人福祉センター夢の湯	九一
四 社会福祉協議会の結成と福祉事業	九三
五 老人ホームはにしな寮	九五
六 部落解放と同和行政	九六
七 公営住宅の建設	九二
第五節 統合中学校と文化施設の建設	九四
一 統合中学校の建設	九四
二 自校給食からセンター方式へ	九七
三 町内三小学校の全面改築	九八
四 坂城町文化センター	九九
五 坂城町の文化財	九七
付録資料	一〇〇
1 坂城町年表	一〇一
2 地区別小字名	一〇二

3 戰没者名簿

五六

現在の町に係る議會議長・副議長

五六

4 歴代旧町村長

五六

明治以降の町村合併図

五六

5 旧村戸長

五六

坂城町誌刊行会役員

五六

6 旧町村長

五六

常任委員

五六

7 現在の町に係る歴代町長

五六

坂城町誌刊行会役員

五六

8 現在の町に係る特別職(助役・収入役・教育長)

五六

事務局

五六

9 旧町村出身県会議員

五六

坂城町誌編纂部委員

五六

10 旧町村出身郡会議員

五六

編集後記

五六

11 旧町村議會議員

五六

五七

五六

12 旧町村議會議員

五六

五六

五六

13 旧町村議會議員

五六

五六

五六

14 旧町村議會議員

五六

五六

五六

15 旧町村議會議員

五六

五六

五六

16 旧町村議會議員

五六

五六

五六

17 旧町村議會議員

五六

五六

五六

18 旧町村議會議員

五六

五六

五六

19 旧町村議會議員

五六

五六

五六